

# 県外先進校の視察研修より パート2

## 大阪府 池田市立ほそごう学園の取組から学ぶ

### 「対話」を核とする授業&異学年の交流学習

すべての授業構成：めあて—対話—ふりかえりの視点で考える  
 対話：子どもの具体的な思考を想定する（板書で見える化）

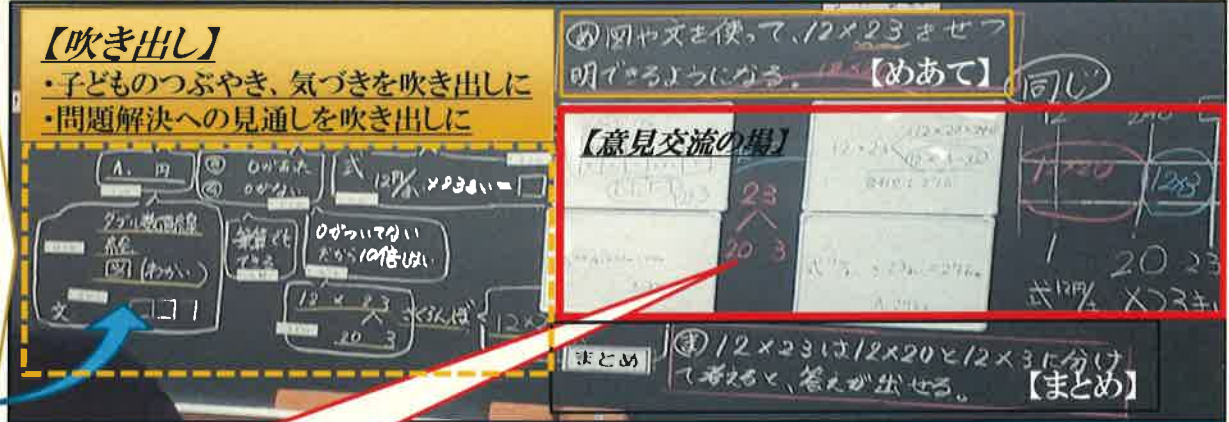
#### ほそごうの授業づくり



学習の「めあて」を明確にすることで、子どもたちが見通しをもって主体的に粘り強く学ぶことができる授業をめざします。

**めあてを明確にし、見通しをもって学ぶ**

授業の板書



**【吹き出し】**  
 ・子どものつぶやき、気づきを吹き出しに  
 ・問題解決への見通しを吹き出しに

**【めあて】**  
 ④ 図や文を使って、 $12 \times 23$  をせつ明瞭にする。【めあて】

**【意見交流の場】**

**【まとめ】**  
 ④  $12 \times 23$  は  $12 \times 20$  と  $12 \times 3$  に分けて考え、答えが出せる。

#### 対話で学びを深める



学習の中に「対話」活動を趣向的に位置づけることで、共に学び合う喜びを感じながら協働的に問題解決する力を身につけていく授業をめざします。

<4人グループでの協働の学び合い！>  
 まずは、自分の考えを書く。4人で自由に相談する。教師は、伝える力、つながる力、創造する力を意識して声かけする！意見は、発表ボードに書いて見える化。意見交流は必ず位置づける。

#### <異学年による交流学習のメリット>

☆子ども同士のかかわりが穏やかで、学校全体の雰囲気が柔らかない。  
 ☆言葉遣いが丁寧で、やさしい。

#### ふりかえりて 自らの学びを確認する



学習の「ふりかえり」を設定することで、子どもたちが自らの学びのプロセスを見つめ返し1時間の学習をより確かにしていく授業をめざします。

#### 小2と中2の九九の授業



#### 小6と中1の人権学習



「異学年だからこそ」相手にどこまで伝わっているか確認し、分かりやすく図や式、身振り手振りを交えて表現している。

授業における「ほそごうスタンダード」  
 小・中学校ともにこの授業スタイル